

相談室だより (米の山) 2013年3月

担当：米の山病院 MSW 渡辺

寒い冬もようやく終わり、だんだんと暖かい春を感じるようになってきましたが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？

今回は、現在援助中の事例紹介と米の山病院地域医療介護連携懇親会について書いていきたいと思ひます。しばしお付き合いのほどよろしくお願ひします。



事例紹介

Aさん 54歳 男性

当院は新患者。援助契機は医師より、「経済的な問題がありそうなので、一度面談をしてほしい」ということでした。依頼を受けてからすぐにAさんと面談を行いました。精神科の病気なのか本人のキャラクターなのかわかりませんが、あまり喋られない様子でした。特に経済的なところになると口を開かれなくなるため、初期面接がうまくすすみませんでした。そのため、当面は声かけだけを行うことにして、しばらく様子を見ていくことにしました。1週間すぎたころからは、しだいにコミュニケーションをはかれるようになり、生活歴や経済面などを聞かせてもらうことができました。Aさんは関東の大学を卒業後、就職をされましたが、7年ほどしてから、退職され自宅がある大牟田市へ戻ってこられました。当時は両親も健在だったため、仕事に就かれることなく、両親に面倒をみてもらいながら、3人で暮らしていました。十数年前に両親が亡くなり、その後は、遺産などで生活されていましたが、それもなくなり、ここ2～3年は、かなり質素な生活をされていました。冬場にもかかわらず、暖房器具もなく、食事は毎食ラーメンのみ、家賃や国保料などは滞納されていました。そういった生活を続けていたた

め、今回心不全となり救急入院となりました。収入は年間25万円の借地代のみで、このままでは退院しても同じ生活に逆戻りすることが考えられ、生活再建に向けて取り組んでいくように話し合いを行いました。その一つとして、生活保護の申請をすすめました。当初Aさんは悲観的だったため、保護申請については、あまり積極的ではありませんでしたが、少しずつ話をしていく中で、心に変化が生まれ、申請することに同意をされました。早速MSWより保護課へ相談を行い、Aさんの外出許可が出ると同時に必要書類を準備し、申請を行いました。まだ結果は出ていませんが、おそらく生活保護の認定がおりるものと思ひられます。法律上では、申請意思があれば、その日から認められるはずの生活保護が、大牟田市では、生活保護の申請書類を受け取った日からでないと、認められない状況のため、入院から申請までの間を無料低額診療で対応することにしました。これで入院費の心配はなくなりましたが、今までの家賃や国保料の滞納について、大家さんや国保課といった所と現在交渉を行っています。また、電気やガス、電話などのライフラインも止まっている状況のため、関係部所との調整も必要であり、まだしばらくはAさんの対応で忙しく飛び交う日々が続きそうです。



「2013年米の山病院地域医療介護連携懇親会」を開催

2月15日（金）18時よりオームタガーデンホテルに於いて「2013年米の山病院地域医療介護連携懇親会」を開催しました。今回で六回目の取り組みとなり、今回は懇親会の前に熊本大学大学院の門岡先生を招いて講演会「臨床倫理～終末期の医療と介護のありかた～」を開催しました。臨床倫理はむずかしいテーマですが、医療・介護現場の中で興味深いテーマでもあり多くの参加につながりました。参加施設は42施設（29病院13施設）で143名の参加者、法人内からは33名の参加、全体で214名の懇親会となり、あらためて連携の大切さと期待の大きさを伺うことができました。

懇親会では、大牟田市立病院中山院長・荒尾医師会阪口会長より、ご挨拶をいただき米の山病院にかける思いや地域連携への願いを実感できました。歓談では、医師・薬剤師・看護師・リハビリ関係・MSW・介護福祉士・介護支援専門員等の多職種が、職種を超えて幅広い懇親ができ、有意義な会となりました。また歓談の途中に、看護部のDVD「きらり看護」の鑑賞も行い好評を得ました。今後もさらに、地域の医療機関・開業医の先生、福祉施設の多くの方々と連携を深めていきます。安心して住み続けられる地域包括ケアシステムを築く一翼になれるように、取り組みを進めていきたいと考えています。

参加された地域の病院・施設の方々からは、「とても楽しく参加させてもらった」「病院だけでなく施設の方もおられるのでいい連携がとれそうです」などの声も聞かせてもらいました。準備は大変でしたが、来年度も是非取り組んでいきたいと思えます。



- ★ いよいよ若手のホープである、坂口MSWが無料低額診療の面接に入ります。今までの研修の成果を存分に発揮してくれると思います。乞うご期待！！
- ★ 今年度も相談室だよりをお読みいただきありがとうございました。毎月定期的に発行することを目標にしていたのですが、なかなか定期発行できずに反省しています。来年度からは新メンバー3名を加え新たに相談室だよりがスタートします。来年度も是非相談室だよりを見てくださいね。